

病 防 第 1 5 8 号  
令和 5 年 5 月 1 2 日

関係機関長 あて

沖縄県病害虫防除技術センター所長名  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察特殊報について

令和5年度病害虫発生予察特殊報第3号を発表したので送付します。

### 令和5年度病害虫発生予察特殊報第3号

1 病 害 名 : *Gibellulopsis chrysanthemi* によるキクの病害

2 病 原 菌 : *Gibellulopsis chrysanthemi*

3 発 生 地 域 : 沖縄本島

4 発 生 作 物 : キク

#### 5 発生確認の経緯

令和4年12月、沖縄本島南部の露地栽培キクで、下葉に褐色輪紋等の症状が確認されたため、沖縄県農業研究センターに同定を依頼したところ、菌の形態及び遺伝子解析結果から、*Gibellulopsis chrysanthemi*と診断された。本病原菌は平成21年に大阪府のシュンギクにおいて国内で初確認され、「シュンギク苗腐敗病」と命名されている。本病原菌は実験的にはレタスやキクなどでも発病することがあるが、自然状態ではシュンギク以外の発病は知られていなかった。令和5年3月に沖縄本島内で発生状況調査を行った結果、島内全域で発生が確認された。

#### 6 病 徴

本症状は葉で発生する(図1)。最初の下葉の表側には淡い斑点または輪紋のような症状が現れ、その葉の裏側には明瞭な褐色斑点や輪点症状が現れる(図2)。病徴が進展すると葉の表側にも明瞭な斑点症状が現れ融合し(図3)、さらに進展すると黒変する(図4)。この黒変した症状はキクの黒斑病の症状に酷似する。対策が遅れると葉が枯れ上がり、著しく商品価値が低下する。

#### 7 病原菌の特徴と伝搬方法

本病原菌の生育温度は3~34℃と広く、さらに長期間の湿潤条件で発生が助長される。また、乾燥した罹病植物組織内でも長期間生存し、半年後でも発病したと報告されている。

#### 8 防除対策

- (1) 健全苗を植え付ける。
- (2) かん水の時に土が跳ね上がらないように注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源となるので速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。

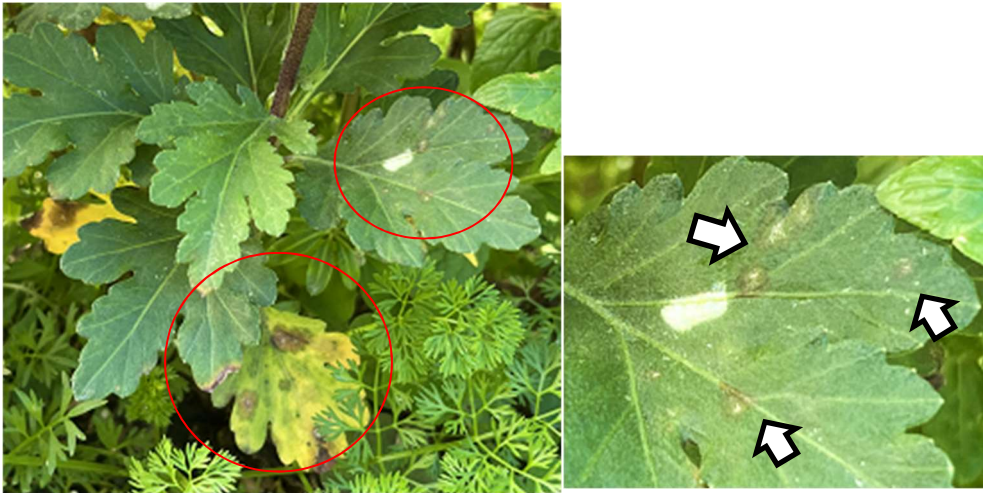


図1. ほ場における罹病株の様子(矢印:病斑を示す)

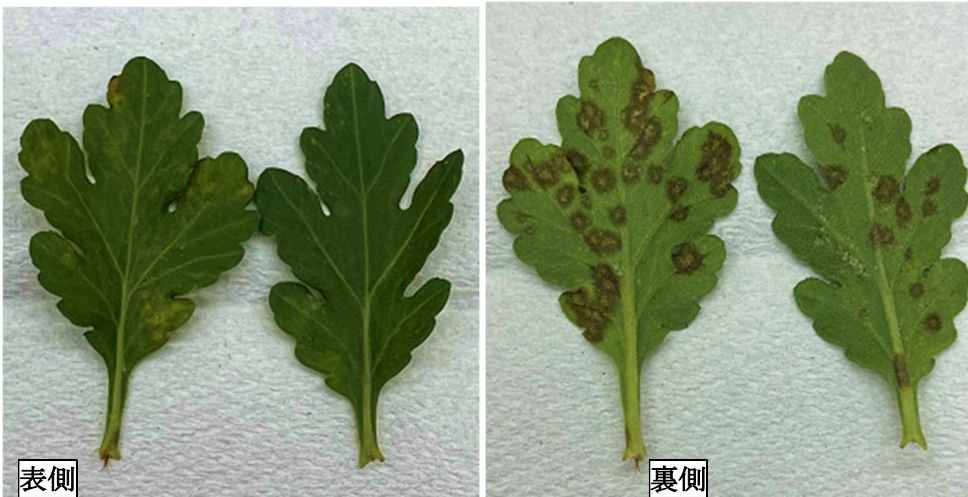


図2. 葉の初期症状



図3. 病斑の拡大・融合



図4. 黒変症状

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>